

三國史記高句麗地名各論

卷三五・#81 緑＝伐、伐力、伊伐、伊火の問題点

orig: 2004/06/30

板橋#2では「緑」を意味する高句麗語として 「伐 bor」「伐力 puruk」「伊伐 ibor」「伊火 ipur」 と4つの語形を挙げている。 これらの依って来たる所は次であろう、と思われる。			
#	新羅版地名	*本高句麗	卷37記事
81	緑驍縣	*伐力川縣	緑＝伐(力)(板橋#2):そうなら驍＝川か？
92	鄰豊縣	*伊伐支縣	鄰＝伊伐支(板橋#9) [111伊伐支縣(一云自伐支)]
126	縁(一作椽)武縣	*伊火兮縣	

- 「伐 bor」「伐力 puruk」:
思考としてはまず上表の#81から「緑＝伐、または伐力」を対応させてみたの
だろう。

然らば、この時に残る「驍」と「川」が対応するのか、ということが問題になる
が、板橋論文ではこの点については触れられていないようである。

「驍」の音は「ギョウ、キョウ」に近いものである。この音が「川」を意味する事
例には行き当たっていない。されば、訓読みが「メ」あたりで「川、水」を意味
するのかもしれないと思うが、これは想像の域を出ない。[実は「馬」なら
「川」の意味になっているようなのだ。](#) 難しい字を使ったが実は訓は「馬」と同
じく「メ、ミ」あたりなのか。

なお、「7 黄驍縣はもと高句麗の骨乃斤縣」というデータもあるが、ここからも
驍＝川を取り出すことはできそうもない。

- 「伊伐 ibor」:
次の#92を見てみると板橋論文ではこのデータから「#9 伊伐支 iboc- 鄰、
(隣)」を抽出している。

同時に、このデータから「伊伐 ibor＝縁」を引き出しているようである。勿論
「伊伐支」が「隣」を意味し、「伊伐」でとどまれば「縁」を意味することがないと
は言えないが、釈然としないものが残る。

- 「伊火 ipur」:
#126に関して私の見ている六興出版の金思燁 訳『三国史記』では上記の
ように「縁(一作椽)武縣」となっていて「縁」とは関係がない。この「一作」とい
う校異記事は糸偏か木偏か二説ある、という意味であり、いずれにしても、旁
は「縁」の旁とは違っている。恐らく『三国史記』の写本も何通りかの流れが
あって、異本があるのであろう。

仮に「縁(椽、縁?)」が「伊火」に対応するとして、「武」と「兮」の対応は認め
られるのだろうか。

「縁」の高句麗語が抽出できた、ということに上のような疑いが残る。

[高句麗語の研究の勉強TOPへ](#)
[HPへ戻る](#)